

第3学年3組 英語科 学習構想案

日 時 令和4年10月6日(木) 第5校時
場 所 3年少人数教室
指導者 教諭 今村 恵里子
A L T Cody Norris

1 単元構想

単元名	PROGRAM 5 The Story of Chocolate (SUNSHINE ENGLISH COURSE3 p.63~p.71)		
単元の目標	(1) 主格の関係代名詞(who, which, that)などを用いて、人や物などを詳しく伝え合うことができる。[知識及び技能] (2) A L Tや友達に自分が好きなものや人物について詳しく紹介するために、情報や自分の気持ちなどを整理しながら、伝え合うことができる。[思考力、判断力、表現力等] (3) 相手に配慮しながら、自分が好きなものや人物などについて伝え合おうとする。[学びに向かう力、人間性等]		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	「話すこと[やり取り]」(イ) ・主格の関係代名詞(who, which, that)を用いた文の構造を理解している。 ・自分が好きなものや人物についての情報や自分の気持ちなどを整理し、主格の関係代名詞(who, which, that)などの簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。	「話すこと[やり取り]」(イ) ・A L Tや友達に自分が好きなものや人物を詳しく紹介するために、それについての情報や自分の気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。	「話すこと[やり取り]」(イ) ・A L Tや友達に自分が好きなものや人物を詳しく紹介するために、それについての情報や自分の気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしようとしている。
単元終了時の生徒の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)			
互いのことをよく知るために、相手に配慮しながら、自分が好きなものや人物について、情報や自分の気持ちなどを整理して伝えたり、相手からの質問に答えたりしている生徒			
単元を通じた学習課題		本単元で働かせる見方・考え方	
互いのことをよく知るために、A L Tや友達と自分が好きなものや人物について紹介したり、質問に答えたりして伝え合おう。		A L Tや友達に、自分が好きなものや人物に興味・関心をもって詳しく知ってもらえるよう、相手に配慮しながら、内容や表現を工夫すること。	
指導計画と評価計画(12時間取扱い 本時7/12)			
過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
一	3	○単元のゴールを理解する。 ○主格の関係代名詞(who, which, that)の意味、用法を理解する。 ○自分が好きなものや人について伝え合う。	【知】(ノート、ワークシート) 【思】(ワークシート、行動観察)
二	5 本時 4/5	○Think1~3の本文を聞いたり読んだりして、全体の概要をつかむ。 ○Think ごとにQ&Aに取り組み、本文の内容を理解する。(本時 Think2)	【知】(ワークシート) 【思】(ワークシート、行動観察) 【態】(ロイロノート、行動観察)
三	2	○既習の文法や語句を使いながら、自分が好きなものや人物の紹介を考え、練習する。 ○A L Tや友達と、自分が好きなものや人物について紹介したり、質問に答えたりして伝え合う。 ○紹介の様子をロイロノートで録画する。 ○紹介したことを書く。	★【知】(ロイロノート、行動観察) 自分が好きなものや人物についての情報や自分の気持ちなどを整理し、主格の関係代名詞(who, which, that)などの簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。 ★【思】(ロイロノート) 自分が好きなものや人物を詳しく紹介するために、情報や自分の気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。 ★【態】(ロイロノート、行動観察) 自分が好きなものや人物を詳しく紹介するために、情報や自分の気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしようとしている。
四	2	○長文の読解問題を解く。 ○単元テスト	★【知】(単元テスト) 主格の関係代名詞(who, which, that)を用いた文の構造を理解している。

2 単元における系統及び生徒の実態

学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)				
中学校学習指導要領 外国語編 [知識及び技能] (1) 英語の特徴やきまりに関する事項 エ 文、文構造及び文法事項 (ウ) 文法事項 a (b) 関係代名詞のうち、主格の who, which, that, 目的格の that, which の制限的用法 [思考力、判断力、表現力等] (2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項 ウ 日常的な話題や社会的な話題について、伝える内容を整理し、英語で話したり書いたりして互いに事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合うこと。 (3) 言語活動及び言語の働きに関する事項 ①言語活動に関する事項 エ 話すこと[やり取り] (ア) 関心のある事柄について、相手からの質問に対し、その場で適切に応答したり、関連する質問をしたりして、互いに会話を継続する活動。 (イ) 日常的な話題について、伝えようとする内容を整理し、自分で作成したメモなどを活用しながら相手と口頭で伝え合う活動。				
教材・題材の価値				
本題材は、健とエミリーがチョコレートについて話したり調べたりすることで、その誕生や生産、消費の歴史について知り、伝え合う内容である。本題材を通して、今では誰でも口にすることができるチョコレートが、当初は一部のしか入手できない貴重なものであり、スイーツではなく苦い菓だったことや、飲み物だったことを知ることができる。生徒は、健が調べたことから各国のチョコレートの消費量を知り、日本との違いに驚き、興味・関心を高めることができるだろう。また、エミリーの発表からは、チョコレートの生産や流通の発達過程において、原料となるカカオ栽培で搾取されてきた人々の存在に気付き、フェアトレードについて学ぶことで、国際社会の多面的な理解を促進することもねらいとしている。 自分が好きなものや人物について紹介する活動では、主格の関係代名詞 (who, which, that) を用いて、それについての情報や自分の気持ちなどを詳しく伝え合うことができるようになることをねらいとしている。また、既習の表現を含めて、互いの好きなものや人物について尋ねたり答えたりし合うことで、表現の幅を広げることができる。				
本単元における系統				
【小学校外国語活動 6年】 <We can! 2> Unit1 This is ME!	【中学校 1年】 (NEW HORIZON) Unit3/ Unit6 一般動詞の現在形 Unit8 人称代名詞の目的格 Unit9 現在進行形	【中学校 2年】 (SUNSHINE) Program6 受け身 Program3 不定詞、動名詞	【中学校 3年】 (SUNSHINE) Program4 現在分詞と過去分詞の後置修飾	【中学校 3年】 (SUNSHINE) Program5 主格の関係代名詞 (who, which, that)
生徒の実態 (単元の目標につながる学びの実態)				
■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況 (9月9日実施 調査対象34人)				
調査内容		正答数	達成率	
日本文に合うように、現在進行形、受け身、現在分詞と過去分詞の後置修飾の文を正しく作ることができる。(空所補充)				
①	Saki (is) (running) in the park.	26人	76.5%	
②	This cake (is) (made) (by) my mother.	8人	23.5%	
③	The girl (playing) (the) (guitar) is Emi.	28人	82.4%	
④	This is the photo (taken) (by) my mother.	16人	47.1%	
日本文に合うよう、与えられた語を並べ替えて、動詞+目的語+to 動詞の原形の文を正しく作ることができる。				
①	The boy listening to music is Daisuke.	23人	67.6%	
②	I like the movie made by Miyazaki Hayao.	24人	70.6%	
③	Do you know the woman talking with Emi?	22人	64.7%	
■本単元の学習に関する意識の状況 (9月9日実施 調査対象34人)				
調査内容	好き	まあまあ	あまり	嫌い
英語の学習は好きですか。	10人	16人	8人	0人
調査内容	話すこと	聞くこと	読むこと	書くこと
英語の学習で好きな活動は何ですか。	24人	10人	15人	10人
英語の学習で苦手な活動は何ですか。	15人	13人	12人	19人
英語の学習で伸ばしたい力は何ですか。	30人	22人	21人	28人

※複数回答を含む

調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない
英語の学習は自分の今後に必要な学習だと思いますか。	17人	16人	1人	0人

■考察

(資質・能力に関して)

既習の現在進行形や受け身、後置修飾の文法事項について、現在進行形や現在分詞の後置修飾は、約7割の生徒は定着している。受け身や過去分詞の後置修飾については、正しく書くことができる生徒は3割程度で、過去形と現在形の区別も含めてほとんどの生徒が未定着である。後置修飾を学んですぐだったためか、単純な受け身の文章における be 動詞が抜けていたり、過去形や過去分詞形の区別がついていなかったりする間違いが多く見られた。再度、受け身と過去分詞の後置修飾について丁寧に指導することで、本単元へのレディネスを整える必要がある。

(学びに関して)

意識調査からは、7割以上の生徒が英語学習に好意的である。理由としては、「英語で話すのが楽しいから」や「友達と会話を楽しみながら新しいことが学べるのが嬉しいから」などが挙げられた。しかし、「好きではない」と答えた生徒も複数おり、そのほとんどが「難しいから」という理由を挙げていた。学習中、生徒が分からなくて困っていることを気軽に尋ねたり解決できたりするよう、ペアやグループでの学び合いを積極的に取り入れていく必要がある。また、書く活動を苦手と感じている生徒が半数以上いることから、話す活動から書く活動へと段差なく移していくことが今後の課題である。短い文章を繰り返し書いたり、言語活動の後に話した内容を書いたりする経験を積み重ねることで、生徒の書く力も伸ばしていきたい。

英語学習の必要性はほぼ全員が感じており、実際の授業においても、話す活動には意欲的に参加することができている。しかし、話すことができるようになりたいと感じている一方で、苦しさも感じている生徒が半数おり、「文法が難しく、何と書いていいかわからないから」や、「うまく文章にして話すことができないから」という理由が挙げられていた。文法の間違いや、正しい文章を作ることにばかり気を取られず、積極的に“何かを伝えよう”とする姿勢を励ますことで、自信をもって伝え合いができる授業づくりを目指す。

3 指導に当たっての留意点

- 単元の導入で、ゴールとなる活動のモデルを具体的に示すことで、学習への見通しをもたせ意欲を高める。
- カードやICTを使って繰り返しパターンプラクティスを行うことで、基本文の定着を図る。
- 校内研修テーマの視点から、生徒に学習の流れが明確になるよう、学習課題・めあて・まとめ・振り返りの学習過程が残る板書づくりを行う。
- 定期的に Small Talk を取り入れることで、既習事項を繰り返し活用する機会とする。
- 人権教育の視点から、ペアやグループでの活動を多く取り入れることで、生徒が多様な考え方に触れたり、学びを深め合ったりすることができるようにする。
- 対話的な活動では、ペアを替えながら繰り返し取り組むことで、使える表現や内容が徐々に深まるようにする。
- 単元のゴールとなる、自分の好きなものや人物を紹介する活動では、聞き手に興味・関心をもって詳しく知ってもらえるよう、生徒自身が思考を働かせながら表現を工夫したり、既習の表現を活用したりすることができるようにする。また、友達の紹介を聞いて尋ねたいことを自由に質問させることで、即興性のあるやり取りができるようにする。

4 本時の学習

(1) 目標 健とエミリーの会話や調べた内容が詳しく伝わるように、表現を工夫しながら Retell をすることができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	10分	1 Warm-Up ① Conversation Training ② Introduction Do you like chocolate? —Yes, I eat chocolate every day. ピクチャーカードを見ながら Think1 と Think2 の内容を簡単に振り返る。 ◇Ken and Emily are talking about chocolate. 2 Today's Goal	○元気よく挨拶をし、学習に向かう雰囲気高める。 ○既習の英会話をすることで英語を話す雰囲気をつくる。 ○チョコレートについての ALT との会話を聞くことで、その後の生徒同士の会話につなげる。 ○生徒とインタラクションをしながら簡単に Think1～2 の内容を復習し、Retell への意欲付けをする。 (ALT: 分かりやすく、やり取りを行う。) ○めあてと本時の課題を確認する。
		【Today's Goal】 健とエミリーの会話や調べた内容が詳しく伝わるように、表現を工夫して Retell をしよう。	
		【学習課題】 詳しく伝えるためには、どのような表現の工夫をすればよいだろう。	
展開	35分	3 Review ①本文を読む練習をする。 ②Q&A に取り組み、Retell のヒントをつかむ。 4 Retell ①まず、やってみる。 ◇This is Ken. This is Emily. They are talking about chocolate. ◇全然言えない。何を言えば文が増えるかな。 ②メモを作る。 ③ペアで練習し、アドバイスをし合っってよりよくしていく。 ◇“～ said” を使うといいよ。 ◇本文中の I は He に変えないといけないよ。 ◇つなぎ言葉を使うといいんだな。 ◇友達の表現を真似してみよう。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 【期待される学びの姿】 ペアを替えながら Retell を繰り返すことで、表現を工夫し、より詳しく伝えようと対話している。 </div> 5 Writing Retell した内容を書く。 ◇言えたけど、書けないな…。 ◇ここは三単現の“s”が必要だった。	○制限時間内に本文が読めるよう指示する。 (ALT: 音読が苦手な生徒の支援をする。) ○Retell に使える表現も探しながら読むように促す。 ○Q&A に取り組むことで、Retell のヒントをつかむことができるようにする。 (ALT: 分かりやすく、生徒と Q&A を行う。) ○最初に何文言えるかを、自覚できるようにする。 ○メモは単語のみで書くようにする。 ○互いの Retell を聞き合い、よい表現を自分の Retell に取り入れながら、よりよくしていくように指示する。 ○アドバイスタイトムを入れながら、できるだけ多くペアを替えて Retell ができるようにする。 (ALT: 対話を観察し、ヒントを与えたり助言をしたりする。) ○中間評価で上手に表現している生徒を取り上げ、よい表現や Retell の仕方を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【具体的評価規準】 話すこと (やり取り) <思考・判断・表現> (行動観察・ワークシート) </div> 【到達していない生徒への手立て】 つながりを意識するよう接続詞の例を示したり、上手に言っている生徒の真似をするよう助言したり、繰り返し練習する中で表現を増やすことができるようにする。 ○Retell した通りに、英文が書けるようにする。 ○書くことで、自分が書ける語と書けない語を認識したり、文法的な間違いに気付いたりできるようにする。 (ALT: 書くことが苦手な生徒の支援をする。)
		【まとめ】 学んだ表現を使って言い換えたり、接続詞を使って文をつないだりすると、相手に詳しく伝えることができる。	
終末	5分	6 Summary 7 Reflection 本時の振り返りをする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 【つぶやかせたい生徒の言葉】 ・最初は 2 文だったけど、Q&A を参考にしたら文を増やすことができた。 ・友達が受け身を使って言い換えていたので、次は自分も使ってみよう。 </div>	○内容を詳しく伝えるためには、どのような表現の工夫ができたのかを確認し、全体で共有してまとめる。 ○最初の Retell と比べて、どのくらい表現を増やすことができ、詳しくなったのかを振り返る。 ○一生懸命に伝えようと取り組んだ姿勢を褒める。 ○次時の学習内容を確認する。

【板書計画】

<p>Program5 Retell</p> <p>学習課題 詳しく伝えるためには、どのような表現の工夫をすればよいだろう。</p> <p>Today's Goal 健とエミリーの会話や調べた内容が詳しく伝わるように、表現を工夫しながら Retell をすることができる。</p>	<div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 40px; margin-bottom: 10px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 40px; margin-bottom: 10px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 40px;"></div>	<p>Thursday, October sixth, sunny</p> <p>〈使える Key Words〉</p> <ul style="list-style-type: none"> • chocolate • medicine • valuable • Spanish • milk chocolate 	<p>ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> • but, so, and • ~said <p>まとめ 言い換えたり、接続詞を使ってつなげたりすると、詳しく伝えることができる。</p> <p>振り返り</p>
<p>※Think1,2 のピクチャーカード</p>			

【ICT活用計画】

<p>例：教師による教材提示の計画、ICTを活用した発表、まとめ等による考えの共有の計画等</p>
<ul style="list-style-type: none"> • イラストを表示し、基本文のパターンプラクティスを行う。 • デジタル教科書を提示し、動画を見せたり、本文読解に活用したりする。 • ロイロノートを活用し、ピクチャーカードの並べ替えをして内容をつかむ活動をしたり、自分が好きなものや人物を紹介し合う様子をお互いに録画して記録に残したりする。

【見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画】

<p>例：単元の終末では、見方・考え方を働かせて次の学習に取り組む</p>
<ul style="list-style-type: none"> • 単元のゴールでは、自分が好きなものや人物について紹介したり、友達の好きなものや人物について即興で質問したり答えたりする場を設定することで、学んだことが身に付くようにする。 • 教科書本文の読解をする際に、読み解くためのヒントやコツを見つけられるようにする。それらを生かして初見の長文を読み解く課題に取り組むことで、読解力を高める。 • 定期テストで、目的、場面、状況に応じた疑問文・応答文を選択したり、書いたりする問題を作成することで、主格の関係代名詞 (who, which, that) を用いた表現についての理解を図る。 • SUNSHINE ENGLISH COURSE 3 Teacher's Manual テスト問題シート (P. 23) 大問③の問題に取り組む。 大問③「日本語の意味に合うように、() 内の語句を並べかえ、主格の関係代名詞を使って英文を書く」